

FUJIEDA SOUTH ROTARY CLUB
藤枝南ロータリークラブ会報

例 会 : 毎週金曜日 小杉苑
 藤枝市青木2-35-30 TEL : 054-641-3321
 事務局 : 藤枝市青木1-11-10 TEL : 054-647-2300
 FAX : 054-647-2040
 E-mail : club1991@fujieda-rotary.org

会長:山田 壽久 副会長:江崎 直利 幹事:渡邊 博文 副幹事:桑原 茂

第1200回 トソグ...それこそロータリー...小さい秋みつけた トソグリーダー...松山 茂範君



**ROTARY
SERVING
HUMANITY**

2016-2017年度 R1テーマ
人類に奉仕するロータリー

■ **会長報告**

山田 壽久君

皆さんこんにちは
 先週ご案内した
 とおり、10月は経済
 と地域社会の発展
 月間ですので、社会
 奉仕委員会の担当
 となります。



本日は社会奉仕委員長の早川さんの卓話となり
 ますので、ご期待ください。そして来週の21日
 はガバナー補佐訪問になります。IM実行委員長の
 佐野さんから、具体的な計画や分担などのお話
 があると思いますので、ぜひたくさんの方の
 皆さんのご出席をお願いいたします。

また、翌日の22日土曜日は青少年奉仕委員会に
 による「コスモス畑でハロウィーン」と題して、仮面
 作り体験や読み聞かせが行われます。当日はメー
 キアップの対象行事となりますので、たくさんの方
 にご出席をお願いいたします。

では、今週も「田中角栄100の言葉」の中から、
 ご紹介いたします。

尋常小学校しか出ていない田中角栄には、
 「学歴」が無かったので、角栄は劣等感を感じた
 こともありました。政治家となってからは、
 逆にその「学歴の無さ」を自らの武器として使う
 ようにもなったそうです。そこから、彼は「必要
 なのは学歴ではなく、学問だよ。学歴は過去の栄光。
 学問は現在に生きている。」と語り、「学問」とは、
 志を持った人間がいつでも学ぶことの出来る
 「生きるための知恵」であり、人間にとって本当
 に必要なものは必ずしも高学歴ではないという
 事を、戦後初めて体現した政治家でありました。

まさに田中角栄的な生き方であったと思います。

少しでも彼の圧倒的なパワーに負けないように、
 自分も色んな事に努力していきたいと思ひます。

■ **幹事報告**

渡邊 博文君

・公益財団法人ロータリー米山記念奨学会より
 ハイライトよねやま 199 が届いております。

■ **出席報告**

藪崎 茂君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
34/46 73.91%	39/46 84.78%

(1)欠席者 (事前連絡とメイクアップをどうぞ)

- 池ヶ谷君 ○稲葉君 ○植田君 ○内山君
- 梅島君 ○江崎君 ○川口君 ○多々良君
- 樽井君 ○中山君 佐野裕君 藪崎幸君

(2)メイクアップ者

- 漆畑 雄一郎君(静岡南) 中山 恵喜君(静岡南)

■ **ビジター**

鹿養 和良君 (名古屋名東)

■ **スマイルBOX**

藪崎 茂君

- ・妻の誕生日のお祝い、そして結婚記念のお祝い
 ありがとうございます。 山田 壽久君
- ・妻の誕生日祝いありがとうございます。明日、
 妻も50代最後の誕生日を迎えます。藪崎 茂君
- ・妻の誕生日プレゼントありがとうございます。
 望月 誠君
- ・妻の誕生日プレゼントありがとうございます。
 渡辺 哲朗君
- ・12日開催のゴルフコンペにて優勝しました。
 おそらく日本新記録のネットスコアだと思います。
 次回はブービーメーカーにならない様に頑張
 ります。 鈴木 照寛君

- ・ゴルフコンペで家内が連続 2 位に入りました。ありがとうございます。私は 4 位でした。

松浦 正秋君

スマイル累計額 155,000円

■ 会員卓話

社会奉仕委員長
早川 清人君



R Iにて採択されている社会奉仕に関する声明の一端を紹介する。

尚、以下は川崎西RCホームページを参考資料として抜粋させて頂いた。

ロータリーの社会奉仕とは、ロータリアン一人一人の個人生活、事業生活、社会生活に奉仕の理想を適用することを奨励、育成することであり、ロータリアン各自が「超我の奉仕」を実証する機会である。

地域に住む人々の生活の質を高め、公共のために奉仕することは、すべてのロータリアン個人にとっても、またRCにとっても献身に値するものであり、社会的責務でもある。

この精神に立脚して、各クラブに対し次のような勸奨事項を示している。

- 1) 地域社会における奉仕の機会を定期的に調査し、各クラブ会員に地域のニーズを検討させること。
- 2) 社会奉仕プロジェクトを実施するに当たっては、会員の得意とする職業上の能力や趣味の力を生かすこと。
- 3) どのようにささやかであっても、あらゆる社会奉仕活動が重要であると認識した上で、地域のニーズを汲み、地域内のクラブの立場や力量を勘案してプロジェクトを始めること。
- 4) 各種社会奉仕活動を秩序立てるために、RCが提唱するインターアクト、ローターアクト、ロータリー地域社会共同隊、その他のグループと緊密に協力すること。
- 5) 国際レベルのロータリー・プログラムと活動を通じて社会奉仕プロジェクトを強化する機会を確認すること

- 6) 社会奉仕プロジェクトの実行に当たっては、望ましく、また、実現可能な限り、必要とされる資金や人材の提供までも含めて、地域社会にも参加を求めること。
- 7) 社会奉仕の目標を達成するために、R Iの方針に沿って他団体と協力すること。
- 8) 社会奉仕プロジェクトが一般社会の人々に十分認められるようにすること。
- 9) 社会奉仕活動において他の団体の協同参加を促進する触媒としての役割を果たすこと。
- 10) それが適当であるならば、公共組織、奉仕団体、その他諸団体に、継続中のプロジェクトを委譲すること。そうすれば、RCは新プロジェクトに携わることが可能となる。

そして、社会奉仕の理想の適用を実行することについては、多くのクラブが会員による奉仕にその機会を与えるものとして、さまざまな社会奉仕活動を進めてきている。以下は、ロータリアンおよびRCの指針として、また、社会奉仕活動に対するロータリーの方針を明確に表すものとして、また管理に役立つと認め、採用されている諸原則である。

- 1) ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕—「超我の奉仕」の哲学であり、これは、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである。
- 2) 本来RCは、事業および専門職務に携わる人の代表として、ロータリーの奉仕の哲学を受入れ、次の四つのことを実行することを目指している人々の集まりである。

まず第1に、奉仕の理論が職業および人生における成功と幸福の真の基礎であることを団体で学ぶこと。第2に、自分たちのあいだにおいても、また地域社会に対しても、その実際例を団体で示すこと。第3に、各人が個人としてこの理論をそれぞれの職業および日常生活において実践に移すこと。そして第4に、個人として、また団体としても大いにこの教えを説き、その実例を示すことによって、ロータリアン以外の人々全てが、理論的にも実践的にも、これを受入れるように励ますことである。

- 3) R Iは次の目的のために存在する団体である。
- a) ロータリーの奉仕の理想の擁護、育成および全世界への普及。
 - b) R Cの設立、激励、援助および運営の管理。
 - c) 一種の情報交換所として、各クラブの問題を研究し、また、強制でなく有益な助言を与えることによって各クラブの運営方法の標準化を図り、社会奉仕活動についても、既に広く多くのクラブによってその価値が実証されており、R I定款に掲げられているロータリーの綱領の趣旨にかない、これを乱すような恐れのない社会奉仕活動によってのみ、その標準化を図ること。
- 4) 奉仕するものは行動しなければならない。従って、ロータリーとは単なる心構えのことをいうのではなく、また、ロータリーの哲学も単に主観的なものであってはならず、それを客観的な行動に表さなければならない。そして、ロータリアン個人もR Cも、奉仕の理論を実践に移さなければならない。そこで、R Cの団体的行動は次のような条件の下に行うように勧められている。いずれのR Cも、毎年度、何か一つの主だった社会奉仕活動を、それもなるべく毎年度異なっていて、できればその会計年度内に完了できるようなものを、後援するようにすることが望ましい。この奉仕活動は、地域社会が本当に必要としているものに基づいたものであり、かつ、クラブ会員の一致した協力を必要とするものでなければならない。
- これは、クラブ会員の地域社会における個々の奉仕を奨励するためにクラブが継続的に実施しているプログラムとは別に行われるべきものとする。
- 5) 各R Cは、クラブとして関心があり、またその地域社会に適した社会奉仕活動を自主的に選ぶことについて絶対的な権利をもっている。しかし、いかなるクラブも、ロータリーの綱領を無視したり、R C結成の本来の目的を危うくするような社会奉仕活動を行ってはならない。そしてR Iは、一般的な奉仕活動を研究し、標準化し、推進し、これに関する有益な示唆を与えることはあっても、どんなクラブのどんな社会奉仕活動にせよ、それを命じたり禁じたりすることは絶対にしてはならない。

- 6) 個々のR Cの社会奉仕活動の選択を律する規定は別に設けられていないが、これに関する指針として以下の準則が推奨されている。
- a) ロータリーの会員の数には限りがあるので、R Cは、市民全体の積極的な支持なくしては成功しえないような広範囲の社会奉仕活動は、他に地域社会全体のために発言し、行動する適切な市民団体などの存在しない土地の場合に限り、これを行うこととすべきであり、商工会議所のある土地では、R Cはその仕事の邪魔をしたり、横取りをしたりすることのないようにしなければならない。しかし、ロータリアンとしては、奉仕を誓い、その理念の教えを受けた個人として、その土地の商工会議所の会員となって活動すべきであり、また、その土地の市民として、他の善良な市民と一緒に、広くすべての社会奉仕活動に関与し、その能力の許す限り、金銭や仕事の上でその分を果たすべきである。
 - b) 一般的に言って、R Cは、どんな立派な事業であっても、クラブがその遂行に対する責任の全部または一部を負う用意と意思のない限り、その後援をしてはならない。
 - c) R Cが奉仕活動を選ぶ場合に宣伝をその主たる目標としてはならない。

これらR Iの声明に準拠し、今年度の当クラブ社会奉仕小委員会の事業目的は、「例会・卓話でCSRについて、各会員より話す機会を持ちたい。」とした。

CSRとは、企業の社会的責任 (corporate social responsibility) の略称であり、企業は利益のみを追求するのではなく、その組織の事業活動が社会へ与える影響に責任をもち、社会全体の視野から、あらゆる利害関係者の要求に対して企業は適切な対応をとるべきであるとの理念である。

企業によりこの具体的行動は異なるものではあるが、この理念を共に語り合い、自らの事業において何をすべきかを常に意識することは重要と考える。

当小委員会では、その為の機会を少なからず設営していきたいと考えている。

私のライフワークは、日々自宅と医院の往復であります。診療が終了して帰宅時には8時過ぎてしまいます。これから何か



趣味をしようかなんてとても考えられません。近頃、ハイボールを片手にパソコンに向かう機会が多くなりました。当医院での歯周病の新しい治療の導入のための患者さんと医院の歯科衛生士向けのマニュアル作成の原稿を書いております。昔、趣味は？と聞かれ「仕事だよ」と答えたことがあります。

今まさに再び私のライフワークのなかで仕事＝趣味になっております。皆様からすれば面白くない奴かと思いますが、これでいいのです。

例会プログラム

例会日	クラブ行事	摘要
10/21(金) 第 1201 回	IM実行委員会	
10/28(金) 第 1202 回	早朝例会	
11/4(金) 第 1203 回	財団・米山委員会 担当	理事会
11/11(金) 第 1204 回	会員卓話	

(担当／鈴木寿君)